

安曇野市まちづくり推進会議 第5回ワーキンググループ
(区の意義や重要性の理解促進部会)

- 1 会議名 安曇野市まちづくり推進会議第5回ワーキンググループ
- 2 日時 令和2年2月10日(月) 午後3時00分から午後4時30分まで
- 3 会場 安曇野市役所 本庁舎 4階 大会議室 東
- 4 出席者 田村会長、熊井副会長、大澤副会長、中楨委員、瀧澤委員、増田委員、青柳委員、玉井委員、小口委員、妹尾委員、堀井委員、望月委員、土屋委員
- 5 担当課出席者 宮澤市民生活部長、地域づくり課 山田課長、青柳係長、矢下主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 2人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和2年2月25日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ【田村会長】
- (3) 検討事項【進行：宮澤部長】
 - ① ワーキンググループにおける検討結果及び市への提言書（案）について
 - ② その他
- (4) その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

検討事項 ① ワーキンググループにおける検討結果及び市への提言書（案）について

<資料1について説明>

委員 最後のページ公民館で「コミュニティづくりにつながる」を「つなげる」にしたほうが良い。

<資料2について説明>

事務局 追記、修正点についてご意見をいただきたい。

委員 「民生児童委員のところで、区長と民生委員は必要に応じて懇談を行い、地域の安心安全のために情報交換をして、よりよい区をつくっていく。」といった内容を追加してほしい。

事務局 7ページの「防災・減災・災害時の対応」について、犠牲者を出さないと言い切るのではなく、違う表現に変えてもよいか。

事務局 そこに危機管理課がどのような動きをしてくれるのかを追記してほしい。

委員 相互支援だけでなく、市を含めた関連機関との連携といった話を追記させていただく。

事務局 「地域づくりと事業」について、「参加してよかったと思えるような事業」といった文言を入れてもよいか。

各位 合意

事務局 11 ページ「NPO法人・市民活動団体」の役割で、登録を行うことはいいが、各区などの困りごと、あるいはニーズを把握するとなると、重くなってしまうといった意見があったがいかがか。

委員 登録をしていくことで、認識してもらえるというメリットがあるのであれば、重い内容ではなく、登録したほうがいいことが伝わるような、前向きな書き方ができれば良いと思う。

事務局 登録することによって、各区とのつながりができて、課題を解決できるといった意味がある。一つ目、二つ目の部分で同じような内容があるので、一つにまとめさせていただく。

事務局 高齢者の一人暮らしの世帯が増えている中で、役員も担えず、区を脱会していく人がいる。その中で区から脱会しないことについて、お考えをいただきたい。

委員 高齢化が進む中で、役が担えないことが理由で、隣組に迷惑かけるから、隣組から脱会している。区からも脱会したいという話が今後増えていくことが予想される。支え合う、助け合うという観点で包含した隣組組織に変えていかなければならない。高齢や健康状態によっては、役を担えない方もいるので、きちんと隣組の中にとどめ、支えていくことが必要。私の地域では、各世帯に番号をつけて、受けられない人は免除する取り組みをはじめた。

委員 掃除などに出られない人は出なくてもいいとしている。問題は区長や総代を選ぶ際、喧嘩状態になり、それで脱会する人もでた。柔軟な話し合いができるようにすること、今まで通りの区の体制を縮小していくことを話し合って、今いる人でやっていくことはできないかと思っている。

委員 その体制が部制度となる。

委員 区では年間計画をたて会議の日程が決まっており、会議は1時間として役員の負担を減らしている。役員の中ではスムーズに流れるようになったが、区民にはまだ伝わっていないので、今後検討していく。公民館の役割に情報誌の発行と書かれているが、区の情報を伝える役割は誰が担うのか。

委員 真々部区では真々部新聞編集委員会という組織があつて、事業や活動を載せているが、今後は、課題を載せて、検討状況について盛り込もうとしている。隔月で全戸配布している。

委員 印刷も含めて全て手作りでやっている。ある意味では大変であるが、近年で150世帯ぐらい増えたが、新聞を利用して区を知ってもらうツールとして利用している。

委員 高齢者で脱会する問題に対して、各区がどの程度問題視しているのか。高齢化で区の仕事、班の仕事ができないので脱会したケースや、班全員が退会した際にも、どう対処しているかといえば、仕方ないと済ましてしまっている現状がある。そして各区の判断に委ねている。会議では提起されるが、各区では問題視していない。これからこのような課題に対して各区が意識をもち、地域区長会で審議され、市区長会に話があがることを期待する。また、市の区長会から各区に投げかけていくことが必要になるのではないか。今起きている問題を止める必要もあるが、その前に区の意義や重要性を徹底して市民に知らしめることの方が優先順位が高いと思う。

委員 あがつてこない一つの理由は任期が1、2年しかないので、それらの課題を向き合わず流したい気持ちがあるからではないか。

事務局 市民に区の重要性を認識してもらうことから基礎をつくっていく。市区長会などしっかりとした組織体制の中で提言書の内容を把握しながら取り組みを進めていくということが良いか。

委員 今のうちに手を打つ必要がある。

事務局 区を脱退しないための対策として、それらを入れさせていただく。外国人の皆さんが豊かな生活を送るための取り組みについていかがか。

委員 アパートに暮らしている人が多い。多様性について、これから考えていかななくてはならない。

<専門部会「まちづくり部会 地域で暮らす外国人住民とのコミュニケーション」について説明>

事務局 専門部会で作成したものを区長にお伝えし、区民に広めていくようなことを入れてよいか。

事務局 6ページの「人材」の部分で、安曇野に転入された方の意見を取り入れる仕組みについてご意見をいただいたので、加えてよいか。

各位 合意

事務局 推進委員会から提言書のまとめかたについて意見をいただいた。実際これを動かし、どう成果が表れているのかをどう評価するのか。体系化し、重点項目は何か見える形で評価していくべきといった意見があった。しっかりした体系化したものをつくり、推進委員会、ワーキンググループへの進捗状況の報告など、ご意見をいただく場面で利用できるものをお見せしたいと思う。

委員 区はそれぞれ違うので、こうすべきというように依頼するのではなく、提言した役割の中で、どこに重みづけするのは区の事情に任せることが必要であると思う。

委員 地区公民館は30年前と比べても事業は変わっていない。役員の数も変わっていない。多くは役員中心の事業となっている。6ページの「部制度の推進」で、事業を見直すことも大事であるが、見直すことによって、スリム化、省力化していくことが大事であるので、ここに地区公民館を含めて、と入れてはどうか。

委員 7ページの「隣組長・福祉員」の「福祉員として自覚を持たせるための」を「高まるよう」の方がいいのでは。11ページの福祉事業所の「福祉事業所として事業所開放など可能な事業所が行う。」について文書の修正をお願いする。

その他

今後の予定 2月20日 まちづくり推進会議から市長へ提言書を提出